

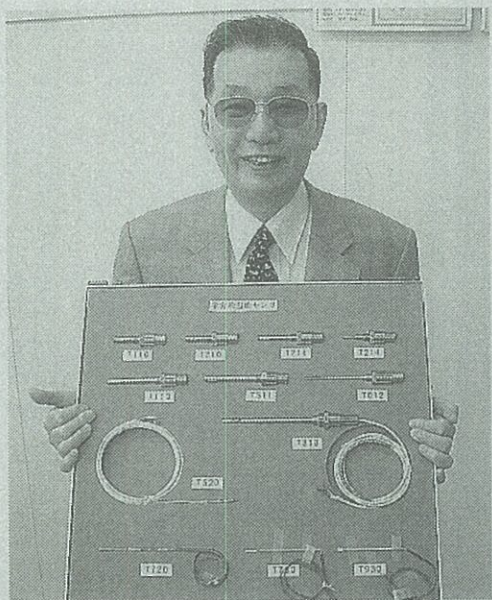
活躍、地球を越えて

岡崎製作所

工業用温度センサー生産日本一

成長術

元氣な中小企業



岡崎製作所が製造した宇宙用の温度センサーと岡崎一雄社長

9月に打ち上げられるH2Aロケット13号機。国産のこのロケットに搭載される100を超える温度センサーや液ガスセンサーは、すべて神戸市に本社を置く温度計測器メーカー岡崎製作所(岡崎一雄社長)が手がけた。エンジンの燃料などに使われる液体水素の液位を測るセンサーから、通信・制御用のモニター設備、ロケットから切り離す技術衛星に取り付けるセンサーに至るまで、ありとあらゆる部分で利用されている。

工場、発電所、ロケットも

岡崎製作所 54年に現社長の実父が貿易会社「岡崎貿易」を設立し、米国から温度センサーの原材料を輸入した。59年に製造部を設け、米国や台湾にも工場がある。

超低温まで幅広い。宇宙という未知の環境下で使用するため、耐久性や耐震動性はもちろん、感度についてもけた違いに高い水準を求められる。

同社のセンサーは精度は誤差プラスマイナス0.1度以内、感度は0.3秒以内と、ずば抜けた技術力を誇る。「航空宇宙分野の仕事がうちの技術レベルを一気に上昇させた」と岡崎社長(76)。

温度センサーは、「熱電対無機絶縁(MI)ケーブル」と呼ばれる技術でつくっている。これは金属管の中に複数の種類の金属線を通し、無機物で絶縁したものだ。金属線の両端を接続した部分に温度差が生じると、回路に電流が流れる仕組みを使って温度を測る。

感度が高く、耐久性や耐震性に優れており、自由に曲げ伸ばしできるなど加工も容易。航空

宇宙のほかにも原子炉の試験用、模擬燃料棒や発電所のライ

ン、石油化学プラントやごみ焼却施設、半導体製造設備など、幅広い分野で温度センサーとして利用されている。

材料から部品まですべて自社で一貫生産しているため、取引先の細かい発注にも対応できるのが強み。髪の毛より細い外径13ミ(0.013ミ)という肉眼では見えない細さのセンサーの

開発にも成功した。今では工業用温度センサーで国内シェアの6割を占め、生産量日本一だ。

生産設備の自動化進展や環境意識の高まりを受け、温度管理の需要はますます高まっており、引き合いは一層、増えている。岡崎社長は「うちはセンサーのデパート。得意分野しかやらないが、この分野なら大企業にも負けない自信がある」と胸を張った。

(高田寛)

鴻池組(本社・大阪)傘下で経営再建を進めてきた中堅ゼネコンの新井組(本社・兵庫県西宮市)は29日、鴻池組と

「車のプロ」

自動車文化、歴史、技術などの知識を問う初の「自動車文化検定(CAR検)」が10月14日、東京、大阪、名古屋で行われる。出題の基本となる公式テキストは、自動車評論家の徳大寺有恒さん、雑誌「カーグラフィック」初代編集長小林彰太郎さんら「クルマのプロ」8人が監修。クルマ文化への造詣も問う内容だ。

出版取り次ぎ最大手の日本出版販売、自動車本の品ぞろえで

「アイエエ」

Q1

Q2

Q3

Q4

Q5

Q6

Q7

Q8

Q9

Q10

Q11

Q12

Q13

Q14

Q15

Q16

Q17

Q18

Q19

Q20

Q21

Q22

Q23

Q24

Q25

Q26

Q27

Q28

Q29

Q30

Q31

Q32

Q33

Q34

Q35

Q36

Q37

Q38

Q39

Q40

Q41

Q42

Q43

Q44

Q45

Q46

Q47

Q48

Q49

Q50

Q51

Q52

Q53

Q54

Q55

Q56

Q57

Q58

Q59

Q60

Q61

Q62

Q63

Q64

Q65

Q66

Q67

Q68

Q69

Q70

Q71

Q72

Q73

Q74

Q75

Q76

Q77

Q78

Q79

Q80

Q81

Q82

Q83

Q84

Q85

Q86

Q87

Q88

Q89

Q90

Q91

Q92

Q93

Q94

Q95

Q96

Q97

Q98

Q99

Q100